

会山行 No.2284-2

冬合宿：八ヶ岳バリエーションコース 赤岳東稜

- ◆日程 2019年12月28日(土)~30日(月)
- ◆メンバー L：林、須田
- ◆天候 晴れ

12月28日

赤岳東稜は竜頭峰から派生し大門沢左俣を分ける大門沢最大の尾根で、県界尾根と真教寺尾根の狭間に位置する。この尾根は全体がやせているうえに第1から第3まで三つの岩峰を有していて、冬期には八ヶ岳には珍しい長い雪稜と岩のミックスした本格的なルートになる。今回の冬合宿でこの手強いルートに林Lと2人で挑んだ。

28日早朝、車で横浜出発。小淵沢駅近くに駐車して電車で清里まで。そこからタクシーで美し森へ。清里ハイランドパーク先のゲートで下車してここから歩き始める。しばらくは大門沢沿いに進んで行くと県界尾根との分岐がある。今まであったトレースは県界尾根方面に進んでいた所以我々は全くトレースの無い東稜方面に向かう。登山者のトレースは無いのだが、所々鹿や兎などの動物の足跡が付いていた。動物たちはとても理にかなったコース取りをしていて、我々が進むルートと重なる部分が多かった。ワカンをつけて樹林帯を進んで行くが場所によっては膝上くらいまでのラッセルとなる。途中でルートよりも1つ右の尾根を上っていたので左にトラバースして正しいルートに修正する。

深い樹林が現れ、かなりの急登が続き体力を奪ってゆく。更なる急登箇所が出てきたのでロープを出して林Lがトップで登る。20m程登ったところでビレイ解除のコールが掛かるが、登攀中にポケットに入れていたスマホを紛失したことが分かった。セカンドの私が辺りを探しながら登って行ったが見つからず、林Lが懸垂で降りてもう一度探してみたが見つからなかった。仕方なくあきらめて、ヘッドランプを点けて2300m地点の幕営適地目指して濃い樹林帯の中を彷徨うように進んでゆく。

ヘルメットに上手くヘッテンを付けられず、何度も外れて焦って前を見失わないように追っかけていた時、ワカンを引っ掛けて前のめりに倒れた。ストックが邪魔になり上手く手を付くことが出来ず、切り株に右胸を強打した。一瞬息が出来ず、強い痛みでしばらく起き上がることができなかった。肋骨が折れたかと思ったが寝ていても埒が明かないので痛みを無視して前を追った。既に暗闇に包まれていてこれ以上進むのは困難なため、樹林帯の中でテントを張れそうな場所を探して幕営した。

林Lの私物のヘリテイジクロスオーバードーム2は自立式の超軽量シェルターでわずか770gしかない。2人用としては十分な広さで居住性も良かった。テントの中に入って暖かいものを飲むとようやく心地が付いた。

12月29日

4時過ぎに起床。昨日の疲労が残っているのか少し寝坊した。明るくなってから出発。樹林帯をしばらく行くと開けた場所が出る。ここら辺が当初の幕営予定地だ。第1岩峰が目の前に現れるが正面は被り気味で右側は切れ落ちているので左側をトラバース気味に回り込んで行く。草付きの岩場を私がトップで登るが、いざ取り付いてみると意外と悪い。易しそうに見えた左側から登ろうとするが手掛かりにした大きめの岩がポコッと取れてバランスを崩して落ちそうになる。こうなるとビビって慎重になり動きが止まるが思い切って右側から登っていく。25kgくらい背負っているとバランスを取るのが大変でちょっとした岩場もかなり厳しい登攀になっ

てしまう。30m程ロープを伸ばしたところで支点を取るが、支点構築中にリストロープが外れてバイルが落ちてしまった。幸い 5m下のブッシュで引っ掛かり助かったが、あそこで止まっていなかったら崖下まで落ちて行っただろう。クライムダウンしてバイルを回収して支点に戻りセカンドを確保する。第2岩峰途中から急斜面を直登する。灌木に中間支点を取り、雪壁をダブルアックスで登りブッシュを掴みながら何とか身体を上げていく。第3岩峰の基部まで来ると後はフリーで登って行けるのでここでロープを仕舞う。強風ですぐに身体が冷えてガタガタと震える。手袋はバリバリに凍り、環付きでないカラビナのゲートが開かなくなる。すっかり暗くなってきたのでヘッドランプを点け第3岩峰を登ると真教寺尾根と合流し竜頭峰に出た。

そこから慎重に文三郎尾根を下り行者小屋を目指して降りていく。ここは何度も通ったことのあるルートだから緊張はしなかったが行者小屋の灯りが遠くに見えたときは心底ホッとした。行者小屋に着いたときは18時半過ぎで、岡村さんたちがいるテントを探したが見つけることが出来なかった。小屋の前でアイゼンを外そうとしたが凍っていて10分もかかってしまった。テントを張り夕飯を食べていると山の会の人達が何人か来て少し話をする事ができた。

寝るときになって林さんが体調不良を訴え過呼吸の症状を起こした。過去に1度経験があるということで自分で袋を口に当てて二酸化炭素を取り込んでいた。かなり苦しそうな様子だったがしばらくすると落ち着いた。

12月30日

朝起きると林さんの体調は改善したように見えたが万全ではなく、また天候も下り坂であることが分かっていたので相談の結果、予定していた横岳西壁は登らず今日中に下山することにした。日比野さんたちと一緒に下山することを伝えようと向こうのテントに話をしに行き初めてみんなと顔を合わせた。河野・岡村組は阿弥陀の北稜に登りに行き、他は一緒に下山した。美濃戸口にあるJ&Nでお風呂に入り、茅野でいつもの蕎麦屋に入って打ち上げをした。

今回の冬合宿はハプニング続きではあったが冬の赤岳東稜を登ることが出来て嬉しく思う。終始リーダーとして引っ張ってくれた林Lに感謝したい。

(記：須田)

CT:12/28 美しの森 9:00-1750m 分岐 10:20-1930m 12:00-2100m 14:05-2300m 泊 18:00

12/29 6:40 発-2500m 8:40-2600m 12:20-2800m 第3岩峰下 17:00-行者小屋 18:40

